

表紙(P1)―別掲

いわて未来研インタビュー

★ 中心課題は、「産業・経済、情報・デジタル化、新たな政策分野
—環境・脱炭素社会への取組み、ウイズコロナ・ポストコロナとも関連させて」です。 ★

🌸 バックカスティングで描く グローバルな日本 🌸



藻谷 浩介（もたに こうすけ）さん

（日本総合研究所 主席研究員、日本政策投資銀行地域企画部特別顧問（非常勤）、地域エコノミスト、1964年生まれ、山口県周南市出身。『デフレの正体』、『里山資本主義』など著書多数）

相原： 藻谷先生は、平成大合併前に3,200ほどあった市町村のすべてと、海外118カ国を私費で訪問し、地域特性を多面的に把握、地域振興や人口問題に関して精力的に研究や執筆、講演を行っておられます。

この度超ご多忙の中、常日頃メールを頂戴しているご縁で、取材をお引き受けいただき感謝いたします。

藻谷： こちらの方こそ、多年お世話になっております。いわて未来研会報・情報誌への掲載は光栄です。この機会に、最近の私の考えを述べさせていただきます。



♥ ♠ 以下質問部分を省略 ◆ 🌸

♥ 情報の鮮度落ちが早い時代ですが、昨年のサッカー・カタールワールドカップの記憶はまだ鮮烈です。また野球では、今年のWBCの日米決戦での勝利、そして14年ぶりの世界一奪還は日本中を熱くしました。

♠ このようなスポーツ界での、日本の若者の躍動と、「日本は衰退の一途」という、最近とみに多くの中高年の語る感想とは、どう整合するのでしょうか。考えているうち、日本の政治行政や衰退企業には、「バックカスティング」という発想が欠けていることに気が付きました。

◆ 「バックカスティング」とは、「こういう未来にしていくぞ!」というビジョンを、手段は抜きに先に掲げて共有し、その後そこに至る長期的なステップを考えていく手法です。横文字ですが、日本でも歴史的な変革の陰には、同じ原

※ 本稿の画像は編集事務局挿入

理の適用があったことでしょう。近いところでは明治維新が、「列強に伍して独立を保ちたい」とのビジョンの共有の上に成功しました。戦後復興も、「平和で豊かな国になり、国際社会で名誉ある地位を得たい」というビジョンを、灰燼の中で共有したことから始まっています。

♣ これに対し、「神君の定めた体制の維持」を図った江戸幕府にも、「最後の一人まで国に殉じて戦え」と押し付けた日本軍部にも、あったのは既得権維持の惰性のみで、「どういう未来が欲しいか」というビジョンがなかったのではないのでしょうか。だから儂く消えたのです。

♥ 日本サッカー協会が2005年に新たに掲げた、「2050年までにワールドカップで優勝」というビジョンを、旧世代は冷笑しました。しかし、地方のチームで育ち海外に移籍する若い世代が増え、いずれ夢は現実化しそうです。野球では岩手で育った大谷や佐々木が、世界を震撼させています。若者の力を引き出すのは、「バックキャスティング」、そしてナショナルではなく「グローバル」なのです。

♠ このようなバックキャスティングの反対が、何を待つでもなく、目の前の問題をひたすら「しのぐ」ことです。これは政府、行政、多くの企業、ともすれば地域おこし団体にまで共通する姿勢ではないのでしょうか。

◆ 彼らは「手段もわからないのに、夢を語ってもムダ」と醒め切り、かといってIT導入や人事改革、法改正といった、手段の革新にも消極的です。今のシステムを惰性で維持することに全力を注ぎ、しのぎにしのぎながら自分自身もすり減っていきます。

♣ 「防衛費増のための増税」という議論にしても、今を何とか「しのぎたい」という思い以上のものが見えません。「増税でなく国債発行でいい」という論はなおさらで、「子どもにどう



シリコンバレー

いう未来を遺すのか」というビジョンが、決定的に欠けています。このままでは「何かやっている感」を出すためだけに、利権に群がる者に、膨大なムダ金を差し出す結果になりかねません。

♥ 中国や北朝鮮、ロシアの各政府とて、「今の独裁体制を続けたい」という、維新時の幕府レベルのビジョンしか持っていません。彼らに感情的な反応は無用です。実効性ある話に絞って準備し、後は腹を括って静観しましょう。それと同時に、彼らの体制の崩れて行く将来、どういう東アジアにしていくのかというビジョンを描き、そこに向けて、今できることをしましょう。

♠ 「景気対策」にしても、毎年数十兆円を費やしながらGDPが1円も増えないのはなぜでしょうか。昭和のままの既得権集団がその金を吸い込み、海外への金融投資に流してしまうからではないのでしょうか。身分制度に胡坐をかく江戸幕府に近代化が無理だったように、東京の既得権集団に、経済を成長させることはできません。

* * *

◆ 首都圏は、人口規模で圧倒的に世界最大の都市圏ですが、そこへの若者や企業の集中は、過去30年間、日本の力を伸ばしませんでした。これに対して例えばシリコンバレーは、仙台都市圏程度の大きさです。成長も革新も、既得権の弱いローカルな場所に、グローバルにネットワークを持つ人材が根差して起こす時代なのです。

❖ 東京の組織に呑み込まれず、地方や海外を自在に行き来しつつ、グローバルに活躍する有能な若者は、着実に増えています。企業も同じで、ナショナルな系列に組み込まれながら毎年何とかしのぐというサイクルを脱し、地元を大事にしつつ世界に展開する会社は、規模の大小に関係なく生き生きとしているのです。

♥ というようなことを考えつつ、正月の箱根駅伝を見ていたら、日本の長距離走の選手が、以前ほどには世界で活躍していないことに気が付きました。首都圏の大学の男子のみの行事を、テレビがナショナルイベントに押し上げ、名門校の出場者の狭い枠を得られなかった、有望選手がつぶれているのでしょうか。青山学院大学の原監督は、「走力のある選手が、サッカーに流れている」と指摘し、「全国の大学に門戸を開くべきだ、その方が出場経験のある指導者が全国に根付き、日本全体が底上げされるだろう」と、グローバルな方向性を提言しています。

♣ 首都圏に進学した大学生を、東京の大企業が雇用する構造も、箱根駅伝と似ています。しかしそこからは、シリコンバレーは育ちません。成長は、ナショナルの枠を捨て、グローバルになれた先にあります。裾野を広げ頂点を高くできた、サッカーのように。東京人になるという経過を挟まずに岩手から世界にはばたいた、菊池、大谷、佐々木のように。

◆ ここに、改めて宣言したいと思います。『時代は「グローバル」だ。未来は、「地域に根差しつつ、世界の中でこうありたい」というビジョンを明確に持つ若い男女と、彼らの主導する企業や行政やNPOのものである。世代交代の先にある、日本の十数年後は、きっと明るい。』

編者注: グローカルとは、グローバル(地球規模の)とローカル(地方の)を掛け合わせた造語で、地球規模の視野で考え、地域視点で行動するという考え方です。

❖ DX (デジタルトランスフォーメーション)が拓く新たな社会 ❖



柴田 義孝 さん

(岩手県立大学研究・地域連携本部 特命教授、元同大学理事・副学長、元同大学ソフトウェア情報学部教授、1950年秋田県生まれ)

相原: ご多忙の中の取材ご協力に感謝致し



ソサイエティ 5.0 の実現に向けて

編者注: DXは、「人間生活のあらゆる面においてデジタル技術によって引き起こされる革新的な創造的価値の支援」と説明されている。

ます。まず先生のこれまでの歩みをお伺いします。

※本稿の画像は編集事務局挿入

柴田：大学院を出て、石川播磨重工業へ勤務しました。当時通信についても一極集中から大規模分散へと切り替わる時代でした。海外ではインターネットが始まった時代です。そんな海外情勢は実際にいって見ないとわからないと思いました。インターネットの中心になる分散型のコンピューティング技術に非常に興味があって、石川播磨重工業を退職して、カルフォルニア大学の大学院に入学しました。

そちらでは学生生活が主体で、学びながら、講師をして収入を得る体制ができていて、世界から優秀な人材が集まっていて非常に厳しい競争社会でした。日本から研究テーマを持って行ったのですが、教授からそれではダメということで、新たに研究テーマを探るところから始まりました。学生のアイデアが教授から認められればそれを即研究するという体制になっていました。

研究を進めていくと新しい課題が見えてくる。自分でテーマを決めて研究して自分で結果を出していく。その研究手法は当時の日本とは全く違っていました。当然言葉もすべて英語ですが、研究領域が限られた専門用語で大体足りる世界でしたので、私の英語力でも大丈夫でした。

博士課程修了後AT&T社のベル研究所に勤め、コンピューターの基本言語であるUNIX OSの研究やインターネット光通信の研究をしたという経歴です。

帰国し、大学教員の道を歩みました。

♥ ♠ 以下質問部分を省略 ◆ ♣

● 社会的背景

- ♥ 社会の変革は、次の流れで把握できます。
- ソサイエティ 1.0 狩猟社会…自然界の狩猟



ソサイエティ 5.0 の実現に向けて

採集による社会

- ソサイエティ 2.0 農耕社会…道具を使って農耕作による社会
- ソサイエティ 3.0 工業社会…機械・エネルギーを使ってモノを生産する社会
- ソサイエティ 4.0 情報社会…インターネットやスマホ等で情報をやりとる社会
- ソサイエティ 5.0?? 社会…経済発展と社会的課題を解決する人間中心社会

● ソサイエティ 5.0

♣ ソサイエティ 5.0 とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と定義されています。

♠ ソサイエティ 5.0 では、IoT（さまざまな「モノ」に通信機能を持たせて、相互通信できるようにする技術）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する社会となることを目指します。

例えば、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されることが期

待されます。

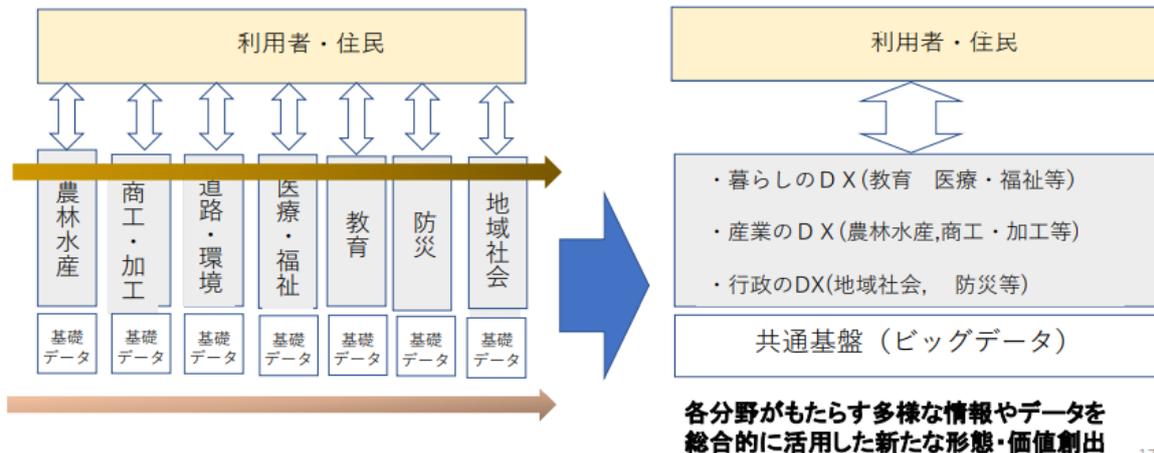
- DX(デジタルトランスフォーメーション)
- ◆ 従来の情報化・ICT(情報通信技術)化とDXの違いは、下図に説明のとおりです。
- ♣ これからの時代に自治体がこのDX化に取り組まないと、国はどんどん先に進めていくので、住民サービスに差がついてしまいます。岩手県も縦割行政や人事異動の関係でDX化の知識経験が蓄積できないところが課題だと思います。岩手県内ではまずデータのデジタル化やデジタル人材の育成を進めましょうという段階です。
- デジタル田園都市構想
- ♥ 現在、地方は、人口減少や少子高齢化、産業空洞化など様々な社会課題に直面しています。デジタル田園都市国家構想は、こうした社会課題を解決する鍵を「デジタル化」とし、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図ろうとしています。そして、「地方に都市の利便性を、都市に地方の豊かさを」を実現して、全国どこでも誰もが便利

で快適に暮らせる社会を目指しています。

- ♣ そのために4つの柱を「デジタルの力を活用した地方の社会課題解決」「構想を支えるハード・ソフトのデジタル基礎整備」「デジタル人材の育成・確保」「誰一人取り残されないための取り組み」として、具体的に2023年度から2027年度の5か年総合戦略を策定、KPI(重要行政評価指標)も具体的に示しています。
- ◆ デジタルの力を活用した地方の社会課題解決として次の4点を挙げています。
 - ① 地方に仕事をつくる
スマート農林水産業・食品産業、観光DXなど
 - ② 人の流れをつくる
「転職なき移住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大など
 - ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
こども政策におけるDX等のデジタル技術を活用した地域の様々な取組みの推進など
 - ④ 魅力的な地域をつくる
教育DX、医療・介護分野DX、地域交通・インフラ・物流DXなど

従来の情報化・ICT化とDXの違い

- ・ 垂直型情報社会から水平展開情報社会への変革
- ・ 従来は各分野ごとの情報化・効率化
- ・ DXでは住民サービスの向上を目的にサービスの提供の仕方自体を変える



❁ 宇宙研究への誘(いざない) ❁



酒井 大裕(だいすけ) さん

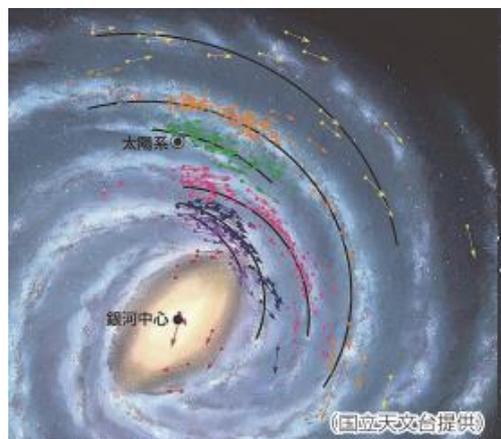
(国立天文台水沢 VLBI 観測所特任助教、岩手日報社特任記者、理学博士、名古屋市出身)

相原: 新聞社の特任記者でもあり、注目を浴びご多忙と存じます。まず、ご出身やこれまでの歩みなどをお伺いします。

酒井: 1991 年生まれです。父が天文好きのため小中学校の頃から天文に興味を持ち慶応大学理工学部物理学科で学びました。東大大学院に進みましたが、大学院時代から特別研究員として 5 年間国立天文台水沢 VLBI 観測所に所属しました。

さらに手を挙げてタイ国立天文学研究所に研究員の立場で 1 年数カ月勤務しましたが、そこでは新しく創る電波望遠鏡の使用・利用の研究をしました。現地ではハイクラスともいえるコンドミニアム(家具付きアパート)に住むことができ、現地の人達とは英語で話していました。

その後、岩手日報社の企画を知り、国立天文台を通じて応募したところ採用となり、国立天文台特任助教兼岩手日報社特任記者となりました。このような同社の若手研究者を育てる取組みは、天文系でも他の分野でも初めてのことで、大変ありがたい支援と感謝しています。



♥ ♠ 以下質問部分を省略 ◆ ♣

- 科学技術の若手研究者を取り巻く環境
- ♥ 科学技術の基礎研究、天文学、素粒子などすぐに実用化に結び付かない分野では、ここ 10~20 年の研究費が減少してきています。日本の経済や景気の影響でやむを得ない面があるでしょうが、基礎研究を一度止めると再開が難しいと思います。昔の発見ともいえるアインシュタインの相対性理論が現代の GPS(人工衛星と地上の制御局を利用して、自分の位置を測定するシステム)に役立っています。10 年後か 100 年後に役立つかも知れない研究を大切にしてほしいと思います。
- ♠ この分野の学生が研究を断念し企業に就職する傾向が強まっていると感じます。また、研究職に進んでも 3 年の任期契約を転々と繰り返す者が多く、次のポストを探すのも大変な状況があります。一方、海外の様子を見ると、博士課程を経て学位を取得し大学に戻るとかなりの高待遇で処遇されます。日本との差は大きく、モチベーション(意欲)に差が生じてしまいます。
- ◆ 研究のレベルで海外と比較すると、世界との差は現段階ではあまりなく、日本はこれまでの研究の蓄えのお蔭で教える側に回っているという側面はあります。ただし、タイ、マレーシア、

※ 本稿の画像は編集事務局挿入

韓国には自国内に新しい望遠鏡を創る計画があるのに、日本には予算がないせいかその計画がないという課題があります。

● サイエンス EYE(アイ)

♣ 国立天文台と岩手日報社との包括的連携協定に基づき令和4年7月から同社編集局の特任記者として同紙に「サイエンス EYE(アイ)」を随時掲載しています。所属する水沢 VLBI 観測所(奥州市、本間希樹所長)での研究、宇宙や科学全般についてのレポートです。

♥ 初回は同観測所の歩みと最新の研究を紹介しました。以下に概要(一部)を記します。

● 水沢 VLBI 観測所

♣ 観測所は、宇宙や地球に関する様々な最先端の研究を行っています。2019年にはブラックホールの影を撮影したことで注目を集め、他の研究でも多くの成果を重ねてきました。前身の緯度観測所開設から123年の蓄積が実り、国際的な観測網は拡大しています。より高い精度での天体の距離や運動の測定、宇宙のダイナミックな現象の撮影が可能になっています。

◆ 研観測所名の VLBI は「Very Long Baseline Interferometry」の頭文字を取ったものです。直訳すると「超長基線電波干渉計」となります。この観測技術は、緯度観測所時代から行ってきました地球物理学と、電波天文学の両方に大きな恩恵を与えています。

♣ 地球物理学の要素が主だった緯度観測所の始まりは、1899年にさかのぼります。当初の目的は、緯度変化の観測で地球の極運動を測定するという国際共同観測でした。そこで木村栄(ひさし)博士(1870-1943年)が地球の緯度変化の新しい項である「Z項」を発



見しました。

♥ 地球物理学に加えて、天文学の研究が本格スタートしたのは、改組統合で国立天文台が発足した1988年以降です。2003年には、VLBI技術を使って天の川銀河の天体の距離と運動を測定する「VERAプロジェクト」が始まりました。

プロジェクトの主な研究目標は、天の川銀河の天体の距離を測量し、3次元立体地図を作成することです。奥州市、東京都小笠原村、鹿児島県薩摩川内市、沖縄県石垣市の4都県の電波望遠鏡を組み合わせることで高い「視力」が得られます。

♣ 2020年にはこれまでVERAで観測された99天体の測量データを公開し、欧米の研究グループが観測した天体を含めてデータを解析することで、天の川銀河の中心までの距離や回転速度など基本的な情報を高い精度で決定することに成功しました。

◆ 2019年と2022年に発表されたブラックホールの影の撮影で使われた観測技術は、VERAで使われていたものと基本的な部分は同じです。撮像に日本の望遠鏡は使われていませんが、VLBI観測の限界に挑戦したもので、観測所が続けてきた研究の一つの大きな到達点ともいえます。



石杜記者の取材レポート

✳ このコーナーは、元報道記者石杜有慎さん(会員、編集スタッフ)の会報・情報誌テーマに沿った現場取材レポートです。

◆ 新品種が広げる野菜の旬 ◆



岩手大学農学部
教授
由比 進 さん

白菜といえば、寒さが増すほどに味わい深くなり、鍋物に欠かせない秋から冬が旬の野菜というイメージがある。しかし、最近では生産量の6割以上が加工・業務用として消費され、需要は年中あるという。そのため通年での供給が期待されていたが、春から夏にかけては栽培が難しく、出荷量の落ち込みは避けられなかった。この課題を品種改良によって解決することに岩手大学などが成功し、新品種が誕生した。40年間にわたり研究を続けてきた同大学の由比進教授(64)に話をうかがった。

白菜は冬から早春に種をまくと、低温にさらされることで花茎を急速に伸ばし花を咲かせてしまう「とう立ち」という現象が起きる。白菜はアブラナ科の植物で、まさに菜の花が咲く。そうすると、葉の数も少なくなるうえ、うまく結球せず、商品価値が下がってしまう難点があった。いわゆる「とうが立つ」と比



左が結球した白菜の新品種「いとさい1号」、右は花茎が伸びたこれまでの品種

喩的にも使われる言葉はこの現象からきているのだろう。春から夏にかけて白菜の出荷量は大きく落ち込み、栽培する農家は電熱マットを使うなどして保温に努めなければならずコスト、労力がかかっていた。

この「とう立ち」をさせないために由比教授らが目を付けたのは、大阪白菜(おおさかしろな)という大阪地方で江戸時代から栽培されてきた在来品種だった。おひたしや煮物に用いられてきた。「同じアブラナ科の仲間である大阪白菜の中には低温にさらされても『とう立ち』しにくい性質を持つものがあり、交配を繰り返すことによって、この性質を白菜に取り込もうと考えた」という。出来た品種は「いとさい1号」と命名され、2021年に品種登録を出願した。名前は共同開発した岩手大学、東北農業研究センター(農業・食品産業技術総合研究機構)、サカタのタ

ネ(本社・横浜市)、岩手県の4者の頭文字を取った。

由比教授がこの研究に取り組んだのは、名古屋大学大学院修了後、三重県にあった農水省野菜試験場に就職した当時、上司からテーマを与えられたことがきっかけだった。その後、農水省野菜・茶業試験場(盛岡市下厨川)、組織改編に伴って農研機構東北農業研究センター、さらに岩手大学に移り、イチゴ、トマト、カリフラワーなどさまざまな野菜の研究に取り組んできたが、白菜の研究はライフワークとして息長く継続し、ようやく新品種として開発に成功した。

「種子を車に例えれば、今は新型車の試作品ができたところで、今後生産ラインを構築する段階に入る」と由比教授。新品種の生産が軌道に乗れば、通年出荷が推し進められる。

「本県のような寒冷地でも産地を確立できるかもしれない。また、国内にとどまらず、白菜の需要がある海外に種子を輸出することも視野に入ってくる」と期待を寄せる。

白菜といえば中華料理の食材や漬け物などアジアのイメージだが、意外にヨーロッパでサラダとして生でも食べられているという。春キャベツのように春ハクサイとして柔らかさを売り物に多様な食べ方を提案することで需要拡大につながるかもしれない。

長い年月を経てようやく得られた成果だが、そのカギは開花抑制につながる遺伝子を在来品種に見つけたことと、DNAマーカーという手法でその遺伝子をスピーディーに特定できたことが大きいという。

「大阪白菜に限らず、伝統野菜を栽培し続けることは多様性を保つ点で重要だ。宝の山とも言える。県内にも岩泉町の安家地大根や

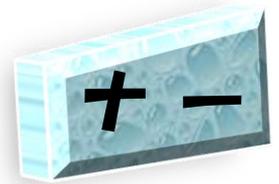
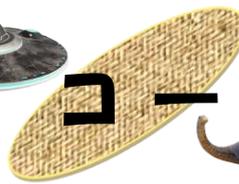
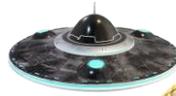
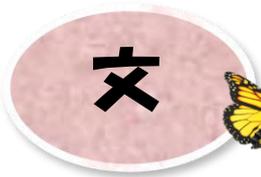


「いとさい1号」の植え作業＝3月28日、岩手大学滝沢農場

遠野市の暮坪カブなど伝統野菜があるが、地域の名産というだけでなく、多様な遺伝資源を生きたまま未来につなげることができる」と由比教授は栽培の意義を強調する。

また、DNAマーカーは特定の性質を発現させる遺伝子を持った個体を選抜する手法のことで、いわば遺伝子診断。これにより、どんな性質が現れるか開花期、収穫期を待たずに個体を選抜でき、品種改良のスピードが飛躍的に速まった。「遺伝子解析をして品種改良という遺伝子組み換えと混同する人もいるが、両者は異なる技術。遺伝情報を解析する技術を基に効率よく交配を重ね、品種改良する余地はまだまだある」と今後の研究の広がり期待する。

由比教授は学会などで「いとさい1号」に関する発表をするときは、テーマを与えてくれた当時の上司と大阪白菜に対する謝辞で締めくくるといふ。品種登録出願まで研究を開始してから38年、大阪白菜の特性を発見した時からでも36年の時を経ている。新品種の普及によって、年中おいしい白菜が食べられ、食材としての新たな用途が増えることに期待したい。白菜に限らず、地道な研究によって野菜の旬が広がり、海外にも波及していく可能性があると思うと夢が膨らむ。



俳句みらい

共鳴句鑑賞 俳人(会員) 岩渕 正力



三・一一唸る一球朗希の日
◎大谷の投打走行春一番
佐々木 田三男

評 WBCにおける岩手出身の両者の活躍は、
地元はもとより、日本中を沸かせた。両者
とも、けれん味の無いのが印象的であった。



もろみ酢よ特許大国豊かにす
◎納豆菌潤う民へ生きたまま
高橋 小秋

評 わが家でも、子供のころ、藁苞で納豆を
造っていた記憶がある。大い糸の立たな
い失敗作であった。



水色のすみれ一輪水温む
◎雪解けて農婦いきいきマツチ擦る
中村 セイ子

評 何にマツチを擦るのが、この句の鍵。私
なら土手草と答えるが、さてどうか？でなか
つたら杉落葉。



◎春の塵拭ひてギター弾きはじむ
春雨や母の形見の小銭入れ
鈴木 正子

評 春愁ふという季語がある。春塵という季語
もある。愁いを癒すために塵を払ってギター
を弾く。聞きたいなあ。



◎少年に席譲られて日脚伸ぶ
紅梅を指さす子等の瞳かな
種田 勝

評 殺伐としたニュースが多い昨今、ほのぼの
としたものを感じる。思いやり、いたわり、
謙譲。



◎新涅槃図開眼供養につどひけり
金縷梅のひと足早く匂ひ立つ

評 正法寺の大涅槃図(縦4m、横5m)の損傷が進んだことから、新しい涅槃図の寄進があり、釈迦命日の2月15日開眼供養がなされた。スケールはずっと小さいが鮮かだ。

穴戸 田良



◎切り貼りの花のはなやぐ春障子

評 山国の土筆堂々たる袴は音のあかるいオノマトペが効果的。詩歌は理わるものにあらずして調ぶるものなり、とか。

衣川 しづか



青空を大きく揺らし雁帰る

◎はこべらと戦かふ日日に痛む腰

評 春の七草の一つ、はこべは当然食べられるし、たんぱく質も多いらしい。しかし、畑一面びっしり生えるはこべは農家にはやっかいな大敵。畑が肥えた証拠だが痛む腰をさすりながら除草。

渡辺 タエ子



◎仏壇に一ときあげて桜餅

評 梅の香に回覧板を持ったままアンケートによると、日本人の8割近くは「私は宗教はありません」と答えるとか。日常の掲句のような行為も宗教心なのだが…。

菅原 節香



◎日の永し夕飯までの一仕事

評 長閑なりお堂に響く経木魚あまり体を動かさず、ごろごろしていた冬の間は大した腹も減らないが、日が長くなつて仕事をはじめると、やたらに腹が減って夕飯が待ち遠しい。ご飯まだかア。

及川 俊和



近 詠

— 叔母さまの四九日法要 —
花になほ名残の雨や卒哭忌

正力



※(掲載は到着順)

かがや

輝くー地域のこゝと・ひと by staff IEKO

＊このコーナーは、元市広報マン家子剛さん(会員、編集スタッフ)による取材リポートです。

◆ 究極の田舎・米里を海外へ発信 ◆

よねさと
米里地区センター
(奥州市江刺)

事務長

竹内 美紀 さん



岩手県旧江刺市(現奥州市江刺)米里地区。市の最東端に位置する中山間地域で高齢化率は53.4%(令和2年10月)と市内で最も高い。少子高齢化が加速度的に進んでいるふるさとのこの地に何とかスポットライトを当てたいと奮闘している竹内美紀(46)さんをご紹介します。

・米里とご本人の紹介をお願いします。

私の住む米里ですが、その中心地に「人首」と書いて「ひとかべ」と読む地名があります。ちょっと恐ろしげな地名の由来は、平安時代、蝦夷の首領・悪路王の甥とも言われる少年首領「人首丸」が朝廷軍と戦うために立てこもった地域で、蝦夷一族が朝廷との戦いを繰り返して敗れ去った歴史舞台の一つと言われています。

そのような蝦夷の哀しい伝説のほか、人首には近世から近代にかけて東北の要衝として栄えた地域、という側面もあります。鉄道や車が発達するまでは内陸から大船渡までをつなぐ盛街道や、遠野へ出る五輪街道の宿場町として、人



さえき
佐伯邸(人首文庫)。正門は人首城の大手門を移築したもの。

首の町はたいそう栄えたといいます。人首が賑わっていた大正時代には、若き日の宮沢賢治が2度、米里を訪れたという記録も残っていません。

私は人首町に生まれ、縁あってえさし藤原の郷を運営している江刺開発振興(株)で働き、平成18年に結婚し主人の仕事の関係でふるさとを離れました。10年後、主人が脱サラし農業をしたいということで田んぼや畑のある実家・米里に帰ってきました。平成29年に地域活動の拠点である米里地区センター事務長のお誘いをいただき、今年で7年目の勤務となります。

・お仕事についてお聞かせください。

地区センターの運営や行政と地域をつなぐ役割、地域の行事・イベントの企画運営などが主な仕事です。帰って来た時、一番に感じたのは地域に元気がないことでした。今の人口は約1,200人。寂しいことに私が勤めた時から6年間で224人、毎年40人近く減少しており、2年前には米里保育所が閉所、今年3月には人首と木細工の両小学校が閉校となりました。でも悲観している暇はありません。子供たちがふるさとに誇りを持ってないと帰って来たい気持ちにな

れない。小さい頃の思い出は今だに強烈に残っていて、記憶に残る思い出を子供たちにつくってあげたい。1年1年思い出づくりの気持ちで地域運営にあたっています。

例えば花火の打ち上げ。かつて米里には2つの教会がありました。明治26年「ロシア正教」のニコライ大主教が、人首正教会へ巡教した際、人首町で歓迎の花火が打ち上げられたそうです。またこの地には人首丸の遺言「私の名をこの地へ」をはじめたくさんの言霊が残っており、歌手のしらいみちよさんの計らいで「人首言の葉（ひとかべことのは）花火のしらべ」と題し、令和元年に約半世紀ぶりにこの地に花火が打ち上がり4回目となった昨年は、両小学校への感謝を込めた特別企画を行い、約250発打ち上げることができました。

最近では、町内の郵便局の向いにある、かつて醤油屋を営み2代目の郵便局（今は4代目）だった明治時代からある洋風建物で、地域の歴史を支えてもくれたこの建物が3月に解体されることを知りSNSで情報発信。結果として、仕立屋でデザイナーをされている北上在住の方が取得され、将来はアトリエとギャラリーにしたとおっしゃってくれました。振興会に入って一番先に行った事がフェイスブックを立ち上げることで、米里出身者の人に地域の現状を伝えることから始めました。おかげで多くの方々から反響をいただき様々な宣伝活動を行うことができている、地域活動を進める上での貴重な情報源であり、今回の建物の存続にもつながったと思っています。

・これからの目標や希望は。

米里には人首丸のお墓や坂上田村麻呂が蝦夷討伐の際に奉祀した麓山（はやま）神社、宮沢



ゆったりとした
時と空間を醸し
出している人首
の町なみ

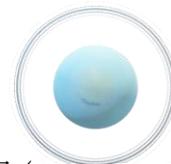
賢治が米里を訪れたゆかりの場所、貴重な文学資料や歴史ある建造物を今に伝える人首文庫と佐伯邸などの文化資源、オープンガーデンの「池とロックガーデン」、カジカも再び生息し始めた清流・人首川などの自然資源など、財産はたくさんあります。子供たちや地域の皆さんにふるさと米里にもっと誇りを持ってもらいたい。そして究極の田舎を売りに、大正時代から今も変わらない人首の町なみが息づく米里に足を運んでもらえるような観光やイベントをこれからも企画し、交流人口を増やしていくのが私の目標です。

有難いことに、ポツンと一軒家、究極の秘境人などこれまでに3件テレビで取り上げてもらっています。2月号の「じゃらん東北」には人首町が紹介され、そのモニターツアーの受け入れも行いました。いずれは日本の田舎・米里をSNSで海外に広めたい。外国人が好むようなまち並みや、自然体験などを通して、究極の田舎・米里をPRできたらいいな。

【取材を終えて】自分のふるさとがさびれていくのは誰もが寂しいもの。地域にある様々な資源を活かし、そこに住む人々の笑顔と誇りをひたすら追い求める竹内さんの情熱と行動力にエールを送らせていただきたい。田舎のよさ、魅力をもっと引き出し、世界に誇れる究極の田舎の誕生に期待したい。



ご案内



NPO法人いわて未来政策・政経研究会 会報・情報誌 第52号(2023.5.19)

総会 (通常総会)

- 日時** 令和5年6月10日(土)
午後2時30分から3時15分まで
- 場所** 岩谷堂地区センター多目的ホール
(奥州市江刺大通り1-61 Tel 0197-35-1201)
- 議題**
- 1 令和4年度事業報告の承認について
 - 2 令和4年度活動決算の承認について
 - 3 令和5年度事業計画(案)について
 - 4 令和5年度活動予算(案)について
 - 5 理事及び監事の選任について

宇宙 講演会

時間・場所 同日午後3時30分から
午後5時まで、同所で

講師 酒井 大裕(だいすけ) 氏
国立天文台水沢 VLBI 観測所
特任助教、岩手日報社特任
記者(理学博士)

演題 「岩手から挑む
天文学の最前線」

※ 同封の様式で6.3(土)までにご報告を。



※ 今回は交流会(懇親会)はありません。

後援：岩谷堂地区振興会

総会ご出欠報告
(正会員用)

同封の葉書により、6月3日(土)までにご報告願います。ご欠席の方(正会員)は、表決委任のためにも必ず葉書をご提出願います。

税務分野別に特化した専門チーム・総合力NO.1の
辻・本郷 税理士法人
代表社員 本郷 孔洋(岩手県一関市出身)
税務顧問・相続・事業承継・公会計など
タイムリーにサービス提供いたします。

辻・本郷 税理士法人 盛岡支部
〒020-0021
岩手県盛岡市中央通2-11-18 明治中央通ビル5階
☎ 0120-10-0606
URL <http://www.ht-tax.or.jp/> 辻・本郷 検索

いわて平成松下村塾 塾生募集 !!

— 随時受け付けます —

これまでの七期で7市町村18名の塾生
が巣立ちました。1名が県議、3名が市議と
して活躍中。